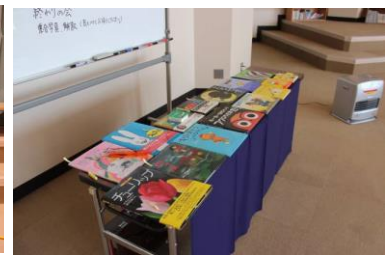


教育事業別報告書

事業名	なすかしの森 親子読み聞かせ会
趣 旨	<p>○絵本の読み聞かせを通して読書の楽しさやおもしろさを伝えるとともに、幼児・児童が書物に興味・関心を持ち、読書をする習慣を身に付けるための一端緒とする。</p> <p>○保護者が絵本の読み聞かせの大切さについて考えることに加え、家庭でも実践できる効果的な読み聞かせの方法について理解する機会とする。</p> <p>○家庭から離れ、日常とは異なる環境下で協力して過ごしたり活動をしたりすることにより、親子がお互いの存在や関係を見つめ直す機会とする。</p> <p>○段ボールや空き缶、フラフープなどの身近なものを使った屋内での「運動遊び」体験を通して、幼児期に体を使って楽しく遊ぶことの大切さを啓発する機会とする。</p>
期 間	平成29年3月11日（土）～3月12日（日）
募集人員 (募集結果)	幼児を含む親子、家族 5家族 13名

① 事業の特色

- 本事業は、絵本専門士の加藤美穂子先生を講師に招き、2歳から9歳までの子供たちとその保護者を対象に、絵本の読み聞かせをはじめ紙芝居や人形劇、「手作り絵本」作り体験を行った。
- 初日の夜には、段ボールや空き缶、フラフープなどの身近なものを使った「運動遊び」体験を親子で楽しむとともに、保護者同士や加藤先生を囲み語らう時間を過ごした。
- つどいへの参加や宿泊室点検、割り振られた時間内に他団体と共用で食事や入浴を行うなど、「標準生活時間」に基づいた生活を親子で協力して過ごした。
- 参加した保護者からは、「毎日、子育て、仕事に追われ、あっという間に一日が過ぎてしまい、ゆっくり子供たちと関わっていなかったので、とてもいい時間を過ごすことができました。」「親もとても勉強になり、子供の好きな本が見つかりました。」「わんぱくコースもカラフルに手作りでいろいろな内容が詰まっていたわくわくしました。」などの感想が寄せられた。



② 事業の成果と課題

〈事業の成果〉

- 講師に絵本専門士を招いたことで、絵本の読み聞かせをはじめ紙芝居や人形劇、「手作り絵本」作りなど、2歳から9歳までの年齢幅が広い子供たちに多様な活動を提供することができた。
- 保護者と絵本専門士が語り合う時間を設けたことで、普段、保護者が読み聞かせについて感じている疑問や悩みを絵本専門士に相談できる機会となった。特に、「親が子供に読ませたい本を読むのではなく、子供が読んで欲しいと思う本を読むこと」、「同じ本でも、子供から求められれば何度でも読むこと」、「父親が読み聞かせをすると、子供の成長にとって良いだけでなく、親と子や親同士の関係にも良い効果がある」などのアドバイスに保護者は熱心に聞き入る姿が見られ、今後の家庭での読み聞かせに役立てることができる機会となった。
- 読み聞かせ活動では体を動かす場面が少ないため、夜の時間に「運動遊び」体験を取り入れた結果、親子が一緒になってのびのびと楽しく体を動かすことができ、翌日の読み聞かせ活動へも意欲的に取り組む態度に結び付いた。

〈事業の課題〉

- 普段、読み聞かせを行っていない、又は読み聞かせを行うことが困難な家庭に対して、読み聞かせ活動の大切さやその方法について普及・啓発するための方策を立てること。
【そのために取り組むべきこと】
 - ・地域の教育活動で中心的な役割を担っている人物を発掘し、その人的ネットワークと連携した広報活動を開拓する。
 - ・より多くの家庭が参加できるようにするため、実施時期、実施期間及び実施場所を弾力的に設定する。（他施設での開催、出前での実施、日帰りでの実施等）
- 講師については絵本専門士に限ることなく、「語り部の会」や図書館の読み聞かせボランティアなど、地域で活動している様々な団体や組織とも連携を図ること。
- 今回は募集対象の中心を幼児とし、当所近隣市町村の保育園、幼稚園及び認定こども園に広報を行ったが、次回は募集対象を小学校低学年まで広げること。
- 募集対象年齢に下限を設けること。（若しくは、年齢別にグループ分けをして実施すること。）
- 募集チラシを当所近隣市町村の図書館や児童館等へも配布すること。

（事業推進室長兼事業推進係長 安達 拓人）